

2023(令和5)年度 全国学力・学習状況調査

逗子市の結果について

(1) 調査の目的

- 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る
- 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる
- 以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する

(2) 調査の対象

- 逗子市立小学校第6学年児童 421名
- 逗子市立中学校第3学年生徒 336名



(3) 調査の内容

①教科に関する調査（小学校：国語，算数 中学校：国語・数学・英語）

出題内容はそれぞれ次の（ア）と（イ）を一体的に出題。

- （ア）身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能など
- （イ）知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力などにかかわる内容

②質問紙調査

- 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査を実施。
- 本年度の主な調査項目は以下のとおり。

- ・挑戦心、達成感、規範意識、自己有用感等
- ・部活動に関する状況
- ・ICTを活用した学習状況
- ・主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況
- ・学習に対する興味・関心や授業の理解度等
- ・新型コロナウイルス感染症の影響

(4) 調査の方式 悉皆調査

(5) 調査日時 2023年（令和5年）4月18日（火）

(6) 調査結果の分析にあたって留意したこと

本調査の結果から見てとれることとして、次のような点に留意して分析を行った。

- ①実施教科が「国語」「算数・数学」「英語」の3教科であり、学習指導要領のすべてを網羅するものではないことから、児童生徒が身につけるべき学力の特定一部であること。
- ②年度により問題の質が異なるため、経年変化の状況のみから学力の向上・低下の傾向を容易に評価することは難しいこと。

(7) 調査結果(正答率)

(小学校)

教科	逗子市正答率	神奈川県正答率	全国正答率
国語	67%	66%	67.2%
算数	67%	63%	62.5%

(中学校)

教科	逗子市正答率	神奈川県正答率	全国正答率
国語	72%	70%	69.8%
数学	55%	52%	51.0%
英語	51%	50%	45.6%

令和5年度全国学力・学習状況調査の結果の分析（小学校国語）

調査結果の概要及び教科の課題等（○良かった点や特徴ある点等 ●課題や改善点等）

結果の概要	全体の正答率は67%と、全国の平均正答率とほぼ変わらなかった。 領域ごとの正答率も大きな差はない。 問題形式では、選択式は全国平均を多少上回り、記述式は多少下回る結果となった。
言葉の特徴や使い方に関する事項	○日常よく使われる敬語を理解しているかどうかをみる問題では、全国正答率を多少上回っている。【3三】 ●学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる問題（特に「期間」の書き取り）では、全国正答率を9.4ポイント下回っている。【1三(1)ウ】
情報の扱い方に関する事項	○原因と結果など情報と情報との関係について理解しているかどうかをみる問題では、全国正答率を4.4ポイント上回っている。【1一】

<p>話すこと・聞くこと</p>	<p>○必要なことを質問しながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことを中心をとらえることができるかどうかをみる問題では、70%以上の正答率で全国正答率を上回っている。【3一（1）（2）】</p> <p>●目的や意図に応じ、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることができるかどうかをみる問題では、全国正答率よりも低く70%を下回っている。【3二】</p>
<p>書くこと</p>	<p>●図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる問題では、全国正答率とほぼ同等だが、30%を下回っている。【1二】</p>
<p>読むこと</p>	<p>○目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見つけることができるかどうかをみる問題では、全国正答率を上回り70%を超える正答率となっている。【2二】</p> <p>●文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができるかどうかをみる問題では、全国正答率を4.9ポイント下回っている。【2四】</p>
<p>児童質問紙 国語に関連する質問 問43～51</p>	<p>「国語の勉強は好きですか」の質問に、62.2%の児童が肯定的に答えている。全国より、0.7%上回っている。また、「国語の授業の内容はよくわかりますか」の質問には、86.3%の児童が肯定的に答えている。さらに、「国語の授業で学習したことは、将来、社会に出た時に役に立つと思うか」の質問には92.6%の児童が肯定的に答えている。しかし、「書いた文章の感想や意見を学級の友達と伝え合い、自分の文章のよいところを見付けていますか」の質問には、66.5%の肯定的な答えであるところを見ると、役に立つことは分かっているが、伝え合う楽しさに気付いていなかったり、自分の表現に自信を持てなかったりするところは課題であると考えられる。</p>

令和5年度全国学力・学習状況調査の結果を受けての逗子市としての取り組み

調査の結果を受けて、今後の指導改善に向けて逗子市として取り組むこと(国語)

概要

知識技能の中でも、「言葉の特徴や使い方に関する事項」に関しては、全国正答率を下回る傾向であり、昨年から引き続き、漢字を文中で正しく使うことに関して、特に下回っている傾向にある。文章全体の構成に着目して文章を整えたり、相手の読みやすさを考えて漢字を正しく書いたり、行の中心に注意して書くために、他者との関わりの中で語彙を増やしたり適切な言語を使ったり、文を読みあったり、何度も校正したりする活動に取り組む必要がある。一方、「情報の扱い方に関する事項」に関しては、全国正答率を上回る傾向であり、本調査で初めて取り上げられた問題である。今後も、原因と結果など情報と情報との関係を理解するために、ある事象がどのような原因によって起きたのかを把握したり明らかにしたりすることを大切にしながらの指導が継続的に必要である。

思考力、判断力、表現力に関しては、全国同様「B 書くこと」の正答率が30%下回っている。引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること等、意識的に取り組むことが大切である。

【言葉の特徴や使い方に関する事項】

学年別漢字配当表に示されている漢字を、文章表現の中で読みやすさを考えて正しく書くことを意識しながら、指導を継続することが大切である。

【話すこと・聞くこと】

話を聞いて自分の考えをまとめる際には、話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、共通点や相違点を整理したり、共感した内容や納得した事例を取り上げたりして、自分の考えをまとめることが大切である。インタビューなどをして必要な情報を集めたり、それらを発表したりする活動等、継続的に指導することが大切である。

【書くこと】

自分の考えが伝わるように書く際には、図表やグラフなどを用いるなどして、書き表し方を工夫することが大切である。図表やグラフなどを用いるのは、示すべきことが、図解したり、表形式やグラフ形式で示したりした方が分かりやすい場合である。観察や実験、調査の結果などを記述する際には、図表やグラフを用いることで、自分の考えを深めたり、相手にとってよく理解できるものにしたりすることが大切である。様々な場面で、自分の考えが伝わるように、書く指導を継続的にすることが大切である。

【読むこと】

文章を読んで自分の考えをまとめる際には、文章の内容や構造を捉え、精査・解釈しながら考えたり理解したりしたことに基づき、既存の知識などと結び付けて自分の考えを形成することが大切である。今回の問題では「C読むこと」の「考えの形成」に関する指導事項が取り上げられ、本調査で初めて取り上げられている。文章を読んで理解したことについて、既存の知識や理解した内容と結び付けて自分の考えを形成できるよう、意識しながら指導を継続的にすることが大切である。

令和5年度全国学力・学習状況調査の結果の分析（算数）

調査結果の概要及び教科の課題等

<p>結果の概要</p>	<p>本市の平均正答率は67%であり、全国、神奈川県の前年調査の平均正答率を4～4.5%上回る結果であった。学習指導要領の領域全てにおいても、全国、神奈川の平均正答率を上回る結果であった。</p> <p>評価の観点においても、知識・技能、思考・判断・表現ともに全国、神奈川県の前年調査の平均正答率を上回る結果であったが、知識・技能に比べ、思考・判断・表現は、全国、神奈川の傾向と同じく平均正答率が下がることに課題が見られる。</p> <p>問題形式では全ての形式において正答率が全国、神奈川県の前年調査の平均を上回った。中でも、選択式62.9%、記述式52.6%と全国平均を5%以上上回った。</p> <p>記述式問題別集計結果を見ると、ほとんどの問題において無回答率が全国、神奈川の平均値を下回る結果となった。無回答率が0%の問題もあり、問題に粘り強く取り組む姿があったことを見取ることができる。</p>
<p>(算数) 数と計算</p>	<p>○少数の加法や乗法を用いて、求め方と答え方を式や言葉を用いて記述し、その結果から条件に当てはまるかどうかを判断できる。(63.4%)【3(2)】</p> <p>○(2位数)÷(1位数)の筆算について、図を基に、各段階の商の意味を考えることができる。(55.8%)【3(4)】</p> <p>●該当なし</p>
<p>(算数) 図形</p>	<p>○図形領域全体でみると正答率は54.5%と全国平均を6.3%上回った。</p> <p>○正三角形の意味や性質について理解している。(38.7%)【2(3)】</p> <p>全問題中2番目に正答率の低い問題であったが、全国平均を13.8%上回った。</p> <p>○高さが等しい三角形について、底辺と面積の関係を基に面積の大きさを判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できる。(26.1%)【2(4)】</p> <p>全問題中最も正答率の低い問題であったが、全国平均を5.3%上回った。</p> <p>●該当なし</p>
<p>(算数) 変化と関係</p>	<p>○百分率で表された割合について理解している。(55.8%)【4(1)】</p> <p>●該当なし</p>
<p>(算数) データの活用</p>	<p>○示された棒グラフと、複数の棒グラフを組み合わせたグラフを読み、見いだした違いを言葉と数を用いて記述できる。(61.5%)【4(3)】</p> <p>●該当なし</p>
<p>児童質問紙 算数に関する質問 問51～54 (算1・2)</p>	<p>○算数に関する質問すべてにおいて、「1あてはまる」と回答した児童が全国、神奈川県の前年調査の回答率を上回った。</p> <p>○「算数の勉強は好きですか」(41.4%)【51】</p> <p>○「算数の授業の内容はよく分かりますか」(53.6%)【53】</p> <p>○「解答時間は十分でしたか」(67.5%)【算2】</p> <p>●該当なし</p>

令和5年度全国学力・学習状況調査の結果を受けての逗子市としての取り組み

調査の結果を受けて、今後の指導改善に向けて逗子市として取り組むこと(算数)

知識・技能の問題についての正答率は71.2%であり全国平均より4%高い。このことから、知識・技能の習得が概ねできていることが分かる。思考力・判断力・表現力の問題については、全国平均を4.6%上回るものの正答率は61.1%と知識・技能の問題より低い正答率となった。また、今回の調査では「高さが等しい三角形について、底辺と面積の関係を基に面積の大小を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述で解答する問題」【2(4)】が全国平均を5.3%上回ったものの、問題の正答率が26.1%と最も低かった。「三角形の面積＝底辺×高さ÷2」という知識を用いて答えを導き出す問題だが、テープの幅を高さとすることに着目できない、高さは数字で表されるとの先入観からか、「このままでは比べられない」と誤答する児童が10.9%いた。算数科の目標である「数学的な見方、考え方」を働かせることができなかったと見取れる。学習した知識や概念を表面的な意味で理解し、なぜそうするのか分からないまま手順だけを身に付けていくことがないように、深い学びへとつなげていく必要がある。

学習者自身が、学習の振り返りをおこなえるよう、身に付けた知識・技能を活用して、自分の考えを論理的に順を追って説明したり、記述したりする学習を心がける。また、その際には、生活場面における事象と算数の内容を関連付けて考えたり、学習したことを用いて自分の考えを表現したりするなど、主体的に学習に取り組める課題や場の設定及びそのための支援について工夫することに取り組む。全ての子どもたちの可能性を引き出せるよう「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させ、児童一人ひとりが「学ぶ意欲」をもって学習に参加できるよう市として取り組んでいく。

【数と計算】

*計算に関して成り立つ性質を見だし、表現することができるようにする指導を充実させるためには、適用する数の範囲を広げていきながら統合的・発展的に考え、共通点に着目させ、ほかの数でも成り立つかどうか確かめることができるようにすることが大切である。また、見いだした性質について、その意味を考え、どの数でも当てはまるようにまとめるよう問い返すなど、一般的に表現しようとする態度を育てる。

【図形】

*図形の学習においては、図形についての見方や感覚を豊かにすることが大切である。単なる知識として図形の性質を指導するだけでなく、具体物を操作しながら図形を構成したり分解したりする活動を通して、図形の性質や構成要素に着目して考察し、基本的な平面図形について理解できるようにする。

【変化と関係】

*伴って変わる二つの数量の間の変化の関係を、言葉、図、数、表、式、グラフなどを用いて表し、変化の様子や対応の規則性を読み取ることができるようにすることが大切である。また、日常生活の中で、伴って変わる二つの数量関係が成り立つ場面を課題に設定するなど、日常生活での問題解決に生かす活動を取り入れる。

【データの活用】

*日常生活において、目的に応じて、必要な資料を収集し、グラフから資料の特徴や傾向を読み取ることができるようにするとともに、複数の資料の特徴や傾向を関連付け、一つの資料からは判断することができない事柄についても判断することができるようにすることが大切である。また、統計的な問題解決活動を行う場面を設定し、その結論をレポートやポスターなどにまとめて発表する活動を通して、表現力を伸ばすことも重要である。

令和5年度全国学力・学習状況調査の結果分析（児童質問紙）

特徴的なことや課題と考えられること等

- 自分にはよいところがあると思いますかという質問に「よくある」「どちらかといえば、当てはまる」と回答している児童の割合は86.6%で、全国、神奈川県の高割合。
- 人が困っているときには進んで助けていますかという質問に「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した児童の割合は92.9%で、全国、神奈川県の高割合。
- 人の役に立つ人間になりたいと思いますかという質問に「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した児童の割合は96.7%で全国、神奈川県の高割合。
- 地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますかという質問に「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した児童の割合は79.7%で、全国、神奈川県の高割合。
生活を通して、自分と向き合ったり、努力したりすることで得られた成功体験や他者との関わりの中で、自己有用感を感じることができると捉えられる。
- 自分違う意見について考えるのは楽しいと思いますかという質問に「当てはまらない」「どちらかといえば、当てはまらない」と回答した児童の割合は24.2%となっている。
- 今住んでいる地域の行事に参加していますかという質問に「当てはまらない」「どちらかといえば当てはまらない」と回答している児童の割合は、40.6%となっている。

令和5年度全国学力・学習状況調査の結果を受けての学校としての取組

調査の結果を受けて、今後の指導改善に向けて学校として取り組むこと

- 逗子市立学校において推進している支援教育の充実を目指し、一次支援（いじめ・不登校などの未然防止の取り組み）について、学校がすべての児童・生徒にとって、安全・安心な居場所となるための「魅力ある学校づくり」と「わかりやすい授業の工夫」に取り組むなど、より丁寧に行う。
- 道徳教育、キャリア教育など、活動を通して自分や他者と向き合い、様々な気づきを大切によりよく生活していくことや学習をしていくことについて考える機会をつくる。
- 個別指導やグループ別指導や児童・生徒の興味・関心等に応じた課題学習などにより、個々の学習に向かう意識を育むとともに、個々の学習や体験をつなぐ場を大切に協働的な学びを展開する。他者との学びによって自分の考えや活動が深められたり、広げられたりする経験を通して意見を交わす楽しさを味わうことができるようにする。
- 環境教育、防災・減災教育など逗子の自然や地域に触れることで見えてくる、課題を自分事としてとらえ、その解決に向けてできることを考え、実践できるよう取り組む。
- 地域で働く人との関わりを持ち、自分の生活とのつながりについて考えることで、課題意識を養う。

令和5年度全国学力・学習状況調査の結果の分析（中学校国語）

調査結果の概要及び教科の課題等（○良かった点や特徴ある点等 ●課題や改善点等）

<p>結果の概要</p>	<p>全体の正答率は72%と全国政党率と比較してもほぼ変わらない。領域ごとでは「B書くこと」69.5%と全国平均正答率を6.3%上回った。また、問題形式では「記述式」の正答率が全国平均正答率を4.8%上回った。</p>
<p>話すこと 聞くこと</p>	<p>○目的や場面に応じて質問する内容を検討することができるかどうかをみる問題では全国平均正答率を上回り90%を上回っている。【1一】</p>
<p>書くこと</p>	<p>○読み手の立場に立って、叙述の仕方などを確かめて、文章を整えることができるかどうかをみる問題、また、自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くことができるかどうかをみる問題は、共に5.5%、7.4%と全国平均正答率を上回った。【3一・3四】</p>
<p>読むこと</p>	<p>○文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えることができるかどうかをみる問題は、全国平均正答率を7.4%上回った。【4三】</p>
<p>伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項</p>	<p>○歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読むことができるかどうかをみる問題は全国平均とほぼ同様に80%を上回る正答率であった。【4一】</p> <p>●文章を読んで理解したことなどを知識や経験と結びつけ、自分の考えを広げたり深めたりすることができるかどうかをみる問題では、全国平均とほぼ同様であるが、70%を下回っていた。</p>
<p>生徒質問紙 国語に関連する質問 問 43～51</p>	<p>○「国語の勉強は好きですか」という問いに対しては、肯定的な回答の割合が67.6%と、全国の数値を6.2%上回った。</p> <p>●「国語の勉強は大切だと思いますか」という問いに対しては、全国の数値を2.5%下回った。</p> <p>他にも「国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」の問いにあてはまる生徒の割合よりも、「国語の授業で、自分の考えを分かりやすく伝えるために、聞き手の立場に立って効果的な話し方を工夫していますか」の問いにあてはまる生徒の割合の方が低いことから、役立つことは分かっているが、現在の自分の話し方に自信を持っていない様子が伺え、課題であると考えられる。</p>

令和5年度全国学力・学習状況調査の結果を受けての逗子市としての取り組み

調査の結果を受けて、今後の指導改善に向けて逗子市として取り組むこと

概要

思考力判断力表現力の「書くこと」に関して、全国平均正答率を6.3%上回り、問題形式では「記述式」の全国平均正答率を4.8%上回っていることから、書いて表現することについて得意とする傾向にある。しかし、文脈に沿って感じを正しく書くことに関しては課題が残る。漢字を正しく用いる態度と習慣を養うことが大切であり、必要に応じて辞書を引くことを習慣づけることが有効である。端末を活用して文字を入力する際にも、漢字が持つ意味に留意して適切に選択する力を養うことが重要である。

平均正答率が最も低いのは「C 読むこと」66.5%となっている。同じ筆者による異なる文章、異なる筆者による主張が共通している文章、同一の話題で主張が異なる文章、同じ内容を扱った異なる新聞記事、立場の異なる読み手を想定した実用的な文章などを教材として取り上げる等工夫して指導することが大切である。

【話すこと、聞くこと】

聞いたことを基に自分の考えをまとめるには、何のためにどのような状況で話を聞いているのかを意識し、話の内容を正確に理解することが必要である。その際、必要に応じて記録したり質問したりしながら聞くことが重要になる。話し手に質問する際に、質問の適切な機会を捉えるとともに、話し手が伝えたいことを確かめたり、足りない情報を聞き出したりするなど、知りたい情報に合わせて効果的に質問することができるように指導することが大切である。

【書くこと】

聞いたことを基に自分の考えをまとめるには、何のためにどのような状況で話を聞いているのかを意識し、話の内容を正確に理解することが必要である。その際、必要に応じて記録したり質問したりしながら聞くことが重要になる。話し手に質問する際に、質問の適切な機会を捉えるとともに、話し手が伝えたいことを確かめたり、足りない情報を聞き出したりするなど、知りたい情報に合わせて効果的に質問することができるように指導することが大切である。

【読むこと】

聞いたことを基に自分の考えをまとめるには、何のためにどのような状況で話を聞いているのかを意識し、話の内容を正確に理解することが必要である。その際、必要に応じて記録したり質問したりしながら聞くことが重要になる。話し手に質問する際に、質問の適切な機会を捉えるとともに、話し手が伝えたいことを確かめたり、足りない情報を聞き出したりするなど、知りたい情報に合わせて効果的に質問することができるように指導することが大切である。

【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】

古典の世界に親しむためには、古典の文章を繰り返し音読して、その独特のリズムに生徒自らが気付くことが重要である。その際、小学校での学習を踏まえるとともに、歴史的仮名遣いなど現代の口語とは異なる古文特有のきまりについて、教材に即して指導することが大切である。

令和5年度全国学力・学習状況調査の結果の分析（数学）

調査結果の概要及び教科の課題等

(○全国平均+5% 良かった点や特徴ある点等 ●全国平均-5%課題や改善点等)

<p>結果の概要</p>	<p>本市の平均正答率は55%であり、全国、神奈川県の前年調査結果を3～4%上回る結果であった。学習指導要領の3領域において、全国、神奈川県の前年調査結果を上回る結果であった。」</p> <p>評価の観点においても、知識・技能、思考・判断・表現ともに全国、神奈川県の前年調査結果を上回る結果であったが、知識・技能に比べ、思考・判断・表現は、全国、神奈川県の前年調査結果と同様に平均正答率が下がることに課題が見られる。</p> <p>問題形式では全ての形式において正答率が全国、神奈川県の前年調査結果を上回った。中でも、選択式は50.6%と全国平均を5%以上上回った。</p>
<p>(数学) 数と式</p>	<p>○「数と式」領域全体で見ると正答率は68.8%と全国平均を5.8%上回った。</p> <p>○自然数の意味を理解している。(54.7%)【1】</p> <p>○数と整式の乗法の計算ができる。(86.7%)【2】</p> <p>○目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができる。(68.3%)【6(2)】</p> <p>○結論が成り立つための前提を、問題解決の過程や結果を振り返って考え、成り立つ事柄を見いだし、説明することができる。(45.6%)【6(3)】</p> <p>●該当なし</p>
<p>(数学) 図形</p>	<p>○空間における平面が同一直線上にない3点で決定されることを理解している。(37.9%)【3】</p> <p>●該当なし</p>
<p>(数学) 関数</p>	<p>○該当なし</p> <p>●該当なし</p>
<p>(数学) データの活用</p>	<p>○四分位範囲の意味を理解している。(73.1%)【7(1)】</p> <p>●該当なし</p>
<p>生徒質問紙 算数に関する質問 問55～58 数(1・2)</p>	<p>○数学の勉強は好きですか(35.4%)【55】</p> <p>○解答時間は十分でしたか(47.6%)【数2】</p> <p>●数学の勉強は大切だと思いますか(43.4%)【56】</p> <p>●数学の授業の内容はよく分かりますか(28.3%)【57】</p> <p>●数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか(31.9%)【58】</p>

令和5年度全国学力・学習状況調査の結果を受けての逗子市としての取り組み
調査の結果を受けて、今後の指導改善に向けて逗子市として取り組むこと(数学)

知識・技能の問題についての正答率は59.9%であり全国平均より4.2%高い。一方で、「累積度数の意味を理解している」【3】の正答率が50.6%、無回答率も12.4%と高くなっているなど基礎的な知識・技能の習得ができていない生徒も一定数いることも分かる。

思考力・判断力・表現力の問題については、全国平均を3.4%上回るものの正答率は45%と知識・技能の問題より低い正答率となった。

今回の調査では「複数の集団のデータの分布の傾向を比較して捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる」【7(2)】、「ある事柄が成り立つことを構想に基づいて証明することができる」【9(1)】の正答率がどちらも36.4%と最も低かった。筋道を立てて考え、事柄が成り立つ理由を説明することを苦手としていることが伺える。

基礎的な知識・技能の習得を図るとともに、習得した知識を活用して問題を解決したり、事柄や事実から問題を見いだしたりする学習をより一層充実させ、思考力・判断力・表現力を育成する必要がある。そのためには、様々な事象を数学的に捉える、数学的に表現・処理する、解決過程を振り返り得られた結果の意味を考察するなどの活動を通して、数学を活用して事象を論理的に考察する力を養うように取り組む。

質問紙調査においては、「数学の勉強は大切だと思いますか」、【56】「数学の授業の内容はよく分かりますか」【57】、数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか【58】の3つの質問において、全国平均を5%以上下回るなど、数学を学ぶ意義や、数学の有用性について見いだせていない生徒が多くいることが分かった。全ての子どもたちの可能性を引き出せるよう「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させ、児童一人ひとりが「学ぶ意欲」をもって学習に参加できるよう市として取り組んでいく。

【数と式】

- * 文字を用いた式の中の文字のもつ意味について理解を図るために、文字にいろいろな数を代入することで変化する式の値の様子から式の意味を考察するなど、具体的な数を用いて表現し文字のもつ意味について考える。
- * 事柄が一般的に成り立つ理由を、筋道を立てて説明できるようにするために、成り立つと予想した事柄について、文字式や言葉を用いて解決するための見通しをもち、その見通しを基に根拠を明らかにして説明する活動を充実させる。

【図形】

- * 図形の学習においては、実際に図に表したり、作図したりするだけでなく、論理的に考察するとともに、考察したことについて筋道立てて説明することが大切である。また、その際には、自分が納得できるとともに他人を説得できると実感できるよう、生徒が見いだしたことや工夫したことなどを、数学的な表現を用いて論理的に説明し伝え合う活動を充実させる。

【関数】

- * 様々な問題を数学的に活用して解決できるようにするために、問題解決の方法に焦点を当て、「用いるもの」と「使い方」を明確にして問題解決の方法を説明する活動を充実させることが大切である。その際に、問題解決のために表した表、式、グラフをどのように用いればよいか説明し合う場面を設定し、検討する活動を充実させる。
- * 日常生活や社会の事象などの具体的な場面に関数を活用することができるよう、関数を用いて具体的な事象を捉え考察するとともに、その考察の過程や結果を表、式、グラフを用いて説明する活動を充実させる。

【データの活用】

- * 代表値を求めたりデータの分布の様子を読み取ったりする場面を設定し、その傾向を捉えて、データに基づいた判断や主張を批判的に考察することを通して、よりよい解決や結論を見いだすことができるようにする。

*日常生活や社会における不確定な事象に関する問題に対して、目的に応じてデータを収集し、ヒストグラムなどに整理し、そのデータの傾向を読み取り、それに基づいて判断し統計的に問題解決する活動を充実させる。

令和5年度全国学力・学習状況調査の結果の分析（中学校英語）

調査結果の概要及び教科の課題等（○良かった点や特徴ある点等 ●課題や改善点等）

結果の概要		全体の平均正答率は51%であり、全国（公立）平均と比較すると5.4%上回り、県（公立）平均と同程度のポイントであった。
学習指導要領の領域	全体	○「聞くこと」の平均正答率は65.5%であり、全国（公立）平均と比較すると7.1%上回り、県（公立）平均と同程度のポイントであった。 ○「書くこと」の平均正答率は30.0%であり、全国（公立）平均と比較すると6.6%上回り、県（公立）平均と同程度のポイントであった。
	聞くこと	○全6問のうち以下の4問では全国（公立）平均を5%以上上回り、その他2問は同程度のポイントであった。【1（1、3）、2、3】
	読むこと	○日常的な話題について、自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を読み取ることができるかどうかをみることを出題の趣旨とする問題では、全国平均を11.6%上回る結果であった。【6】 ○日常的な話題について、短い文章の概要を捉えることができるかどうかをみることを出題の趣旨とする問題では、全国平均を6.0%上回る結果であった。【7（2）】
	書くこと	○全5問のうち以下の4問では全国（公立）平均を5%以上上回り、その他1問は同程度のポイントであった。【8（2）、9（1）①②、10】
知識・技能		○全9問のうち以下の4問では全国（公立）平均を5%以上上回り、その他5問は同程度のポイントであった。【1（1、3）、9（1）①②】
思考・判断・表現		○全8問のうち以下の6問では全国（公立）平均を5%以上上回り、その他2問は同程度のポイントであった。【2、3、6、7（2）、8（2）、10】
生徒質問紙 英語に関連する質問		○以下の5問は「当てはまる」と回答した生徒の割合が、全国の割合を5%以上上回った。 ・英語の勉強は好きですか【59】 ・英語の勉強は大切だと思いますか【60】 ・英語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか【62】 ・将来、積極的に英語を使うような生活をしたり職業に就いたりしたいと思いますか【63】 ・1、2年生のときに受けた授業では、スピーチやプレゼンテーションなど、まとまった内容を英語で発表する活動が行われていたと思いますか【69】 ●以下の2問は「当てはまる」と回答した生徒の割合が、全国の割合を5%以上下回り、かつ、「当てはまる」と「どちらかといえば当てはまる」を合わせても全国の割合を下回った。 ・1、2年生のときに受けた授業では、原稿などの準備をすることなく、（即興で）自分の考えや気持ちなどを英語で伝え合う活動が行われていたと思いますか【68】

	<p>・ 1、2年生のときに受けた授業では、聞いたり読んだりしたことについて、生徒同士で英語で問答したり意見を述べ合ったりする活動が行われていたと思いますか【71】</p>
--	--

令和5年度全国学力・学習状況調査の結果を受けての逗子市としての取り組み

調査の結果を受けて、今後の指導改善に向けて逗子市として取り組むこと(英語)

概要

いずれの分類・区分においても平均は全国(公立)、県(公立)と同程度もしくは5%以上上回る結果であったが、正答率では学習指導要領の「(5)書くこと」や問題形式の「記述式」に課題がみられる。高い正答率がみられる領域の指導をさらに充実させつつ、読んだことを基に自分の考えとその理由を書く指導や、言語の働きを理解し、場面や状況に応じて表現を使い分ける指導を充実させること等が求められる。

【聞くこと】

自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を聞き取るためには、話されることの全てを聞き取ろうとするのではなく、自分の置かれた状況などから何が自分にとって必要な情報かを判断した上で聞き取ることが重要である。

- ・学校行事における係分担の説明や持ち物等の連絡、天気予報、交通情報などを聞き、自分が必要とする情報を聞き取る活動
- ・友達からの招待など、身近な事柄に関する簡単なメッセージを聞き、その内容を把握し、適切に応じる活動

言語活動を行うに当たっては、自分の置かれた状況を把握できているかどうかと、何を聞き取ればよいかを理解しているかどうかを確認することが大切である。その上で、それらに関連する語句や表現に着目して、必要な情報を聞き取ることができるよう指導することが求められる。

【読むこと】

情報を正確に読み取るためには、音声や語彙、表現、文法や言語の働きなどを理解するとともに、これらの知識を、読むことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けておくことが重要である。

また、説明文を読んで、概要を捉えるためには、段落内の文と文との関係を読み取りながら、各段落の主な内容を捉えることが重要である。指導に当たっては、以下のような言語活動に取り組むことが考えられる。

- ・短い説明やエッセイ、物語などの文章全体を読んだ上で、時系列に情報を整理したり、書き手が伝えたいことの大まかな内容などを把握したりする活動
- ・学校生活を紹介している短い文章を読む際に、それぞれの情報の関係を示す接続詞に注目させながら文章の流れを理解したり、キーワードを拾い、全体としての内容を数文の英語でまとめたりする活動

なお、英文を読んで概要を捉える際には、説明文や物語など読んでいる題材に応じた指導を心掛けることが大切である。例えば、説明文の場合には、各段落の主な内容を集めたものを概要として捉えることが考えられるが、物語の場合には、時間の流れに沿ったあらすじを概要として捉えることが考えられる。このように、読んでいる英文の題材に応じて様々な概要の捉え方を指導することが求められる。

【書くこと】

読んだことを基に自分の考えとその理由を書く際には、読み手として主体的に考えたり、判断したりしながら理解したことを基に、コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じて表現することが重要である。指導に当たっては、以下のような言語活動に取り組むことが考えられる。

- ・教科書に取り上げられている話題に関する自分の意見や感想などを、スピーチの形式や、新聞やホームページなどへの投稿文の形式で書く活動
- ・他教科等でも扱われる自然環境、世界情勢、科学技術、平和などの話題に関して読んだ内容を踏まえて、内容に関する感想、賛否やその理由などを書く活動

令和5年度全国学力・学習状況調査の結果分析（生徒質問紙）

特徴的なことや課題と考えられること等

- 自分には、よいところがあると思いますかという質問に「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した生徒の割合は86.7%で、全国、神奈川県の高割合。
- 将来の夢や目標を持っていますかという質問に「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した生徒の割合は67.2%で、全国、神奈川県の高割合。
- 2年生の時に受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたかという質問に「ほぼ毎日」「週3日以上」と回答した生徒の割合は64%で、全国、神奈川県の高割合。
- 学習の中で、PC・タブレットなどのICT機器を使うのは、勉強の役に立つと思いますかという質問に「役に立つと思う」「どちらかといえば役に立つと思う」と回答した生徒の割合は95%で、全国、神奈川県の高割合。
- いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますかという質問に「どちらかといえば当てはまらない」「当てはまらない」と回答した生徒の割合は6.2%で、全国、神奈川県の高割合。
- 学校の授業時間以外に普段（月曜日から金曜日）、1日あたりどれくらいの時間、読書を読みますかという質問に「10分より少ない」「全くしない」と回答した生徒の割合は49%で、全国、神奈川県の高割合。

令和5年度全国学力・学習状況調査の結果を受けての学校としての取組

調査の結果を受けて、今後の指導改善に向けて学校として取り組むこと

- 逗子市立学校において推進している支援教育の充実を目指し、一次支援（いじめ・不登校などの未然防止の取り組み）について、学校がすべての児童・生徒にとって、安全・安心な居場所となるための「魅力ある学校づくり」としてお互いを認め合う学級づくり、援助的・親和的な学級づくりなど、様々な活動を通して取り組む。
- いじめは、人間として決して許されない行為であるということを、すべての児童・生徒・保護者・教職員学校関係者、その他子どもに関わる全ての大人が共有し、いじめの根絶に取り組む。
- 生徒が各教科や各授業時間のねらいや目標を意識し、課題に取り組むことができるよう学習活動を行い、どんな手立て効果的であるかを意識し、ICT機器の活用を検討することや調べ学習等においてICT機器の活用のメリット・デメリットを生徒自身が理解し取捨選択できるようにする。
- 学校図書館の活用を推進するとともに、新たな本との出会いを促せるよう様々なネットワークを活用し、読書や活字に親しむ機会をつくる。